

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立春日小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 - 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 - 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

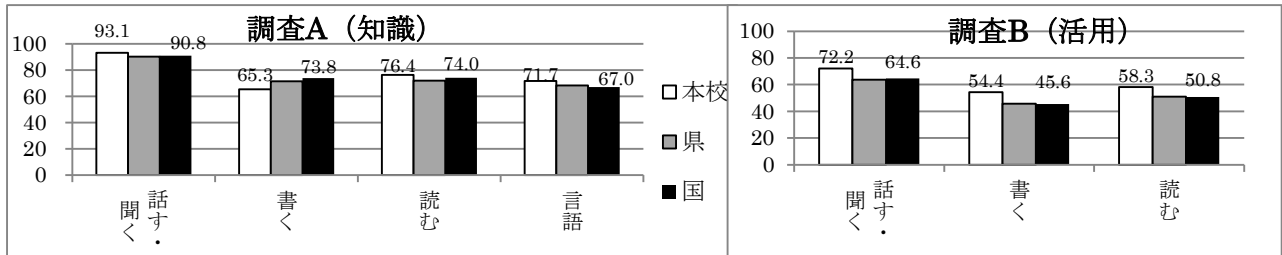
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

(1) 結 果

全国正答率との比較



国語科全体としては、総じて県平均・全国平均を上回っています。特に調査 B(主として活用)では、全ての問題項目で全国平均を上回って、全体で8ポイント高くなっています。しかし、調査 A(主として知識)に関しては、「書くこと」については、全国平均を8ポイント下回りました。また、実際の児童の解答を分析すると、記述式での正答率は高く、誤答率が低く良い状態に見えますが、設問によっては、無解答(未記入)が県平均・全国平均を上回っている項目がありました。また、成績分布の特徴としては、上位者の割合が高いのですが、中位者の割合が若干少なく、下位者がやや目立つといったことから、やや二極化していると言えます。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・話し合い活動での会話の内容を把握し、話し手の意図も捉えています。とても大切な項目です。今後はさらに進めて、自分の意見と照らし合わせながら相手の発言を整理して聞く、そして話す学習が重要となります。

書く

・唯一、県と全国平均を下回った項目です。長い問題文の上に、記述で回答することを苦手とする傾向にあります。設問の問いの文を読むときに、題意を読み誤っていると思われます。題意からずれた記述の回答が目立ちました。問題文の長さ戸惑わずに題意を正確につかみ、適切に記述することが課題と考えます。

読む

・作品を読むときに情景から人物の心情を読み取ることはよくできています。文章の内容も的確に捉えることもできます。今後は、読み取ったことをもとに、「書くこと」と結びつけて、適切に記述することが課題です。

言語事項

・漢字の読みの問題は、全て全国平均を若干上回っていて、大きな差はありませんでした。ただ、主語と述語との関係の項目は正答率が4割以下でした。正しく漢字を活用すること、主語を考えて文章を正しく捉えることは、読む・書くことの基礎です。漢字の正しい活用と主述に着目した読解が課題です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業で、まず、めあてや問題の文について吟味させ、確実に理解させるようにします。そして、自ら追究できるような活動を仕組み、その後、友達の考えと照らし合わせます。読み方の違いを明確にしたり、もう一度、文章にもどって確認したりして、読みこなす体験をさせます。
- 文章中の、言語の使い方に着用させる指導展開を意図し、主述や修飾関係、漢字の使い方の効果に自ら気付く経験をもたせます。また、書くことへの抵抗感を減らせるよう、個別に、できるところから書く、分かったことを書くなど、個に合った手立てを少しずつ進めていきます。

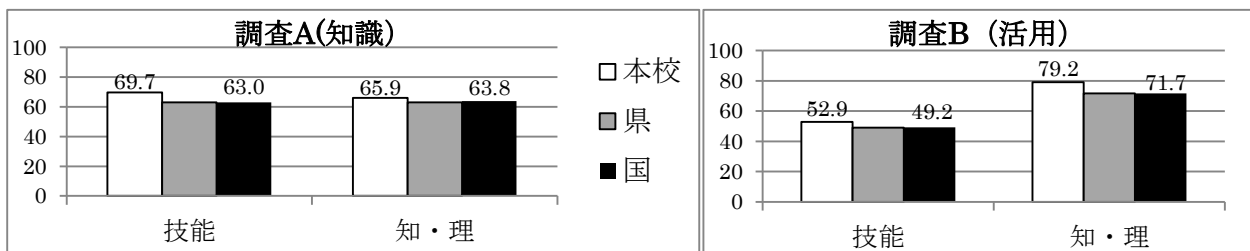
【ご家庭では】

- お子さんの音読を楽しく聞いてあげたりノートを見ていただいたりして、学習内容を把握していただくと、会話も増え、学校と家庭でのつながりも意識できるでしょう。音読や漢字は、気になる箇所もあるでしょうが、できるだけほめていただけたらありがたいです。
- 親子読書は、親子の心の温かさにあふれます。また、家族間で手紙を書き合って受け取る楽しみをもつこともいい機会です。テレビニュースや新聞記事から自他の感想や意見を交流して、情報が広がったり考えが深まったりする経験をもたせることも、今後の学びにつながるでしょう。

2 算数

(1) 結果

全国正答率との比較



調査A(主に知識)と調査B(主に活用)で、正答率は総じて県平均・全国平均を若干上回っています。実際の児童の解答を分析すると、全国平均を超えていた設問項目でも正答率が25%で、かつ、無解答率(未記入)が3割ほどの項目もありました。無解答率の高さが大きな課題です。成績分布の特徴としても、上位者の割合が高いのですが、中位者の割合が少なく下位者がやや目立つといったことからやや二極化していると言えます。国語同様、正答率が高い一方で、無解答率も高いことが傾向として表れています。

(2) 成果と課題

数学的思考方

・「考え方」について、県平均・全国平均を若干上回っていますが、正答率が低く、無解答率が高い設問は、グラフを扱った問題でした。グラフとグラフを見比べて、表しているものが数量なのか割合なのか、どんな変化を示しているかなど多角的に読み取ることが難しいようです。それぞれの情報を正確に読み取って、情報と情報とに相関があることに気づいていくことが課題です。

技能

・数量の表し方、道具の操作の仕方、正しい計算の仕方など、基礎的な技能はある程度定着していると言えます。しかし、十分とは言えませんので、今後も、正確な計算、操作、表現技能を身に付けさせます。

知識・理解

・数量や図形について、ある程度の知識をもち理解もできています。しかし、少数でのかけ算やわり算の立式の意味(積や商が増えたり減ったりする意味)、単位量当たりの大きさを求める設問での立式の意味(例:一人当たりの面積か、1㎡あたりの人数か)などの項目では、誤答も目立ち、今後の課題です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- グラフや表、図、式や言葉を活用させて、まずは自力で答えを追求させます。そして、友達に伝えて、答えの求め方に違いがあることに気づかせます。同時に、問題文について理解したことや、答えの求め方を言葉で伝えさせたりして、言語を活用できるように指導します。
- グラフや表、図などの資料を読み取らせるためにも、社会科や理科で、資料を正しく活用して読み取ったり、表したい情報をグラフや表にしたりして、グラフや表の数値とその背景(事象や現象)を照らし合わせる楽しさをもたせます。
- 朝のスキル学習では、基礎的計算、フラッシュ計算で基礎学力の定着を目指します。また、TT・少人数指導の工夫で個に応じた指導に努めます。

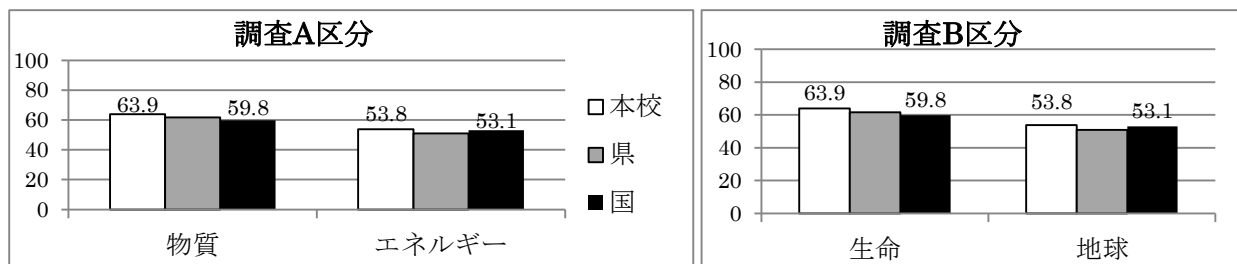
【ご家庭では】

- お子さんのノートや学習プリントテストに目を通して、学習内容について話題にしたりつまづきを聞いたりしましょう。そしてたくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 生活の中で算数を生かしましょう。買い物の場面で、量と値段でどちらの商品を選ぶか、割引後の代金は、合計支払いの見当など。乗車中に、スピードメーターを見て速度と距離と時間の関係など。・・・数字をもとにお子さんに思考する機会を意識して与えてくださればありがたいです。

3 理科

(1) 結果

全国正答率との比較



正答率は総じて県平均・全国平均を若干上回っています。実際の児童の解答を分析すると、全国平均を超えてはいても、正答率が25%や37%の設問項目がありました。両方とも、記述式での回答でした。無解答率(未記入)は、ほぼ0%で、全国との傾向と変わりません。成績分布の特徴としては、やや上位者の割合が高かったようです。

(2) 成果と課題

A区分(物質)

・ろ過や蒸発の実験について器具の使い方や結論をまとめる設問でした。正答率が37%の設問は、食塩水の蒸発の問題で、学習課題に(めあて)沿った結論(まとめ)の文言が問われていました。めあての文言と照らし合わせながら、まとめの記述をすることができずにいました。めあてを意識して、実験観察し、結論をまとめる、この一連の活動の筋道を、普段から意識できているかが課題と言えます。

A区分(エネルギー)

・回路を流れる電流の大きさや向きを問う設問でした。正答率が39%の設問は、効果的な光電池板の向きについて、太陽の向きとの関連から考える内容でした。時刻と太陽の方角についてなどB区分の内容との複合問題です。一つの知識に留まらず多角的な思考が必要です。

B区分(生命)

・安全に生き物を観察する方法と人の体の動き方についての設問内容でした。概ね理解できていました。生き物や人間がどのように育ち、どのような仕組みで動き生きていくのか、今後も学ばせていきます。

B区分(地球)

・川の水の流れの速度や量と、地面の浸食について、天気の変化との兼ね合いも考えて思考する内容でした。正答率が25%の設問では、実験結果をもとに適した結論を導き出す内容でした。これについての課題は、一つは、めあてを意識して、実験観察し結論をまとめる、この筋道を意識できているかということと、加えて、大雨とその被害などのニュースについて、普段から関心をもっているかということです。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 自分から進んで、めあてを意識して、実験観察し、結論をまとめる、この一連の活動の筋道を意識させる授業展開を行います。器具の準備や操作法、実験観察の条件など、教師が指示するだけでなく、自分たちで考えさせて実験観察に臨ませる機会をもたせます。
- 記述して理解したり言葉で伝えたりする指導をします。グラフや表、図、言葉を活用させ説明させながら、自分なりに結論を導くこと。そして、友達に伝える中で、条件や方法の違いによる結果の違いについて考えたり、結論をまとめたりする過程を大切にします。

【ご家庭では】

- 事象について疑問に思うことは、家庭の中でも溢れています。洗濯物の干し方から風呂の使い方などの生活の工夫。また、どうしてこんなに夏は暑い(太陽高度、公転)。なぜ冬は息が白い(気温、水蒸気)。などの素朴な疑問など大切にしたいところです。身の回りの疑問が科学への好奇心とつながることがあることを意識して、お子さんの疑問に触れ合えってくださればと思います。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
毎日、同じくらいの時刻に起きる。	87.5	88.8
朝食を毎日食べている。	90.3	94.5
地域の行事に参加する。	56.9	62.7
地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある。	43.1	49.9

起床時刻や就寝時刻、加えて学習開始時刻を固定しておくことが大切です。リズムが不規則だとだらだらした生活につながります。朝の起床時刻が遅いからでしょうか、朝食を食べない児童も約1割います。1日の食事の中で1番大切な食事といわれています。家庭における生活習慣の見直しが必要と考えます。

また、地域行事とのかかわりが薄いようです。家族を大切に思い郷土を誇りに思うことが、将来に向けての活躍の基盤と思います。また、地域の中で生活し、今後、地域社会の形成者として育っていくためにも、地域の行事、地域の友達、地域の大人たちとのこれまで以上のかかわりが求められます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	62.5	67.6
家で、授業の予習・復習をしている。	69.4	62.6
平日、家で、1時間以上勉強をする。	56.9	66.2
平日、家で、10分間以上読書をする。	51.3	66.2

自ら家庭学習を進めることが自ら学んで生きていく重要な習慣です。家で授業の予習・復習をしている割合は多いものの、その時間数が少ないようです。宿題や習い事の時間との兼ね合いもあるでしょうが、大人でなく自分自身で計画して時間の管理をしながら学習することは生きて働く力だと思います。これまでの生活について振り返らせて生活時間の有効な活用について考えさせ、予習や復習をすることを促して自主性を育てながら学力向上へつなげたいと考えます。

また、読書時間が少ないようです。時間があればテレビやゲームではなく、読書にももっと時間を割いて、自分から読み進めていく楽しさを味わってほしいと思います。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

○学級指導、家庭科、保健等の時間で、1日の時間の使い方について指導します。学習時間と適切な就寝時刻や起床時刻などに関する「春日っ子振り返り週間」で、全家庭に協力を求めて、子どもの生活習慣を見直し改善する機会を設けます。

○高学年では、自主学習(自学)ノートを進め、自力で自分に合った学習を奨励します。

○家庭での生活習慣と学習の大切さに、地域とのつながりの大切さについて、今後も PTA や地域団体との連携を強めていきます。

【ご家庭では】

○子どもさんとテレビ視聴、ゲームする時間の約束をしてください。約束をすることで家庭学習の時間が確保され、早寝早起きのよい生活習慣もついてきます。低学年から、よい習慣を付けるようにすると、けじめある生活ができるようになります。

特に、「春日っ子振り返り週間」で、毎日、起床や就寝の生活のリズムから、お手伝い、テレビやゲームの時間の把握と見直しをお願いします。環境づくりや言葉かけをよろしくお願いします。

○テストや「通知表」だけではなく、普段から学校での学習についての把握をお願いします。

○PTA や子供会、地域の行事など、地域等で触れ合う機会には、是非参加を勧めてください。